

マーケット概況（2023年6月）

6月の債券相場は、米国の追加利上げ見送り観測の高まりから米債利回りが低下したことを受け買いが先行し、債券先物6月限は前月末比8銭高の148円68銭で取引を開始した。しかし、2日発表の5月米国雇用統計が市場予想を上回りFRBの利上げ継続懸念が再燃し、さらに翌週には米国の債務上限問題が無事合意に至ったことで、日経平均株価は33年ぶり高値を更新する一方、債券相場は軟調に推移した。その後、FOMCでの利上げ見送りを経て、16日の日銀金融政策決定会合の結果が全会一致で現状維持と発表されると債券相場は反発し、現行政策の長期化が意識されるなか上値を迫る展開となった。一部で不安視された22日の5年債入札も無難に通過したことで、5年158回債はカレントとして昨年11月11日以来となる0.045%、10年370回債は4月3日以来となる0.350%をそれぞれつけ、債券先物9月限も一時149円12銭まで上昇した。ただ月末にかけては、低調となった27日の20年債入札を機に高値警戒感から各年限に戻り売りが出る、良好な経済指標を背景に米国債金利が上昇したことも加わって売り優勢となり、債券先物9月限も148円55銭まで下落して取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は-0.18%台でスタートしたが、月中旬にかけては投資家需要減退し-0.14%台まで上昇した。国庫短期証券買入オペも軟調な結果が続き、23日の3M1165回債入札では最高落札利回りが-0.11%台まで流れ、セカンダリー市場でも-0.11%台前半で取引が見られた。月末入札の3M1166回債では期越え10月償還物となったが、積極的な投資家需要は限定的で前回債同様-0.11%台での着地となり、最終的に-0.131%で取引を終えた。6M金利は月中旬までは-0.16%台～-0.17%台で推移し、月末に向けては3M金利上昇に伴い-0.140%オファー気配まで上昇した。月前半に-0.16%台で推移していた1Y金利は、1Y1164回債入札では-0.12%台の無難な結果となり-0.150%で取引を終えた。

<一般債市場>

6月の定例地方債は10年債が前月対比でスプレッド4bpタイト化の国債対比+25.0bp、5年債は1bpタイト化の同+13.0bpで条件決定したが、投資家需要は依然強く、順調に消化された。既発債も公共債セクター、社債セクターのいずれも良好な需給環境が続いた。SDGs債関連では、アイフルが消費者金融業界初のソーシャルボンドを起債したほか、日本トランスシティが同社初のグリーンボンドを起債し、また、都市再生機構が5年債と10年債で同機構初のサステナビリティボンドを起債した。社債発行額は、銀行等金融セクターの起債が活発となり、発行銘柄数・発行額のいずれも前月から大幅に増加し、発行額は2兆774億円と6月としては2年ぶりに2兆円の大台を突破した。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#370	0.430(1日)	0.350(26日)	0.435(1日)	0.395(30日)
#369	0.400(1日)	0.320(26日)	0.405(1日)	0.365(30日)
#360	0.255(1日)	0.160(26日)	0.260(1日)	0.200(28日)
#158(5Y)	0.085(1日)	0.045(26日)	0.090(5日)	0.060(30日)
#184(20Y)	1.035(1日)	0.940(26日)	1.040(5日)	0.990(30日)
#1155-#1161 TDB(6M)	-0.165(8日)	-0.170(8日)	-0.165(8日)	-0.170(23日)
#1159-#1166 TDB(3M)	-0.190(2日)	-0.190(2日)	-0.112(28日)	-0.131(30日)